

厳しい練習を通して  
子どもたちの精神力を  
培います

第23回全国少年柔道大会（東京・講道館）には、都道府県の代表48チーム（小学5・6年生5人がチームを構成）が出場。昨年のベスト8に続いて、2年連続で出場した誠有館有櫛道場（若草町）の小学生チームは、見事、全国一に輝きました。

「うちの道場は、厳しいですよ」ときつぱりとした口調で話す有櫛さんは、室蘭中央市場内の会社に勤務するサラリーマン。帰宅後、自ら設立した誠有館の館長として子どもたちに柔道を指導しています。

「厳しさの中で、精神力を培います。汗をいっぱい流して、努力したときには抱きしめてやる。くじけそうなときには、何時間でも話し合います。最高位を競う子どもたちは、皆、柔道の技も体力もしっかりとしたものをもっています。その場面で、実力を出し切れるか否か。最後は精神力で勝敗が決まってくるんですよ」

しっかりと接すれば、  
子どもたちは、皆、  
輝いてくるはず

五段の腕前をもつ有櫛さんが柔



子どもたちを指導する有櫛さん

道を習い始めたのは、小学3年生の時から。職に就いてからも、室蘭市内の道場に通り、20年ほど前に念願の誠有館有櫛道場を設立しました。

「子どもが好きなんです。今も昔も子どもは同じ。大人がしっかりと接すれば、皆、輝いてくるはず。私は柔道を通してたくさんの人と出会い、たくさんのことを学びました。それを子どもたちに伝えていきたい。夢を持ち、努力を続けること。夢がかなえられたら、新たな夢に向かって努力すること。その大切さを柔道を通して、しっかりと伝えていきたいです」と目を輝かせて話してくれた有櫛さん。次の目標・全国少年大会連覇に向けて、道場に掛け声を響かせています。



KIRARI

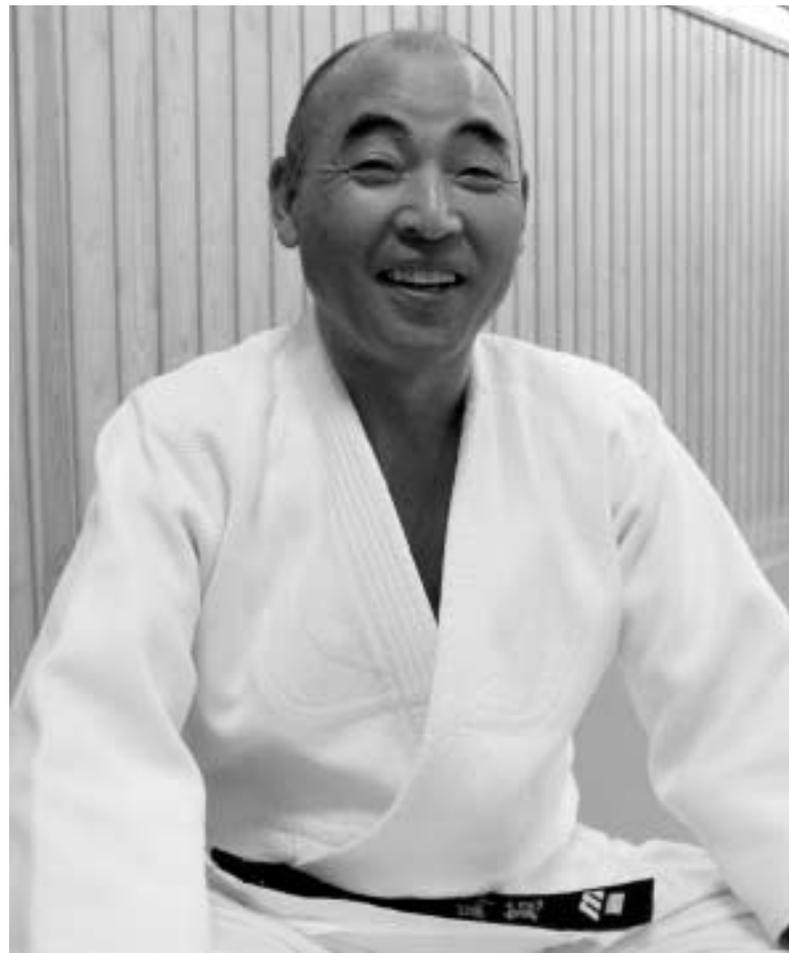
あり くし  
**有櫛**

いさお  
**勲**さん(若草町)

5月5日に講道館（東京）で開かれた第23回全国少年柔道大会で誠有館有櫛道場（若草町）の小学生チームが見事に初優勝しました。

同チームを指導する館長の有櫛勲さんに大会のことや柔道少年への思いなどを聞きました。

夢をかなえたら、  
新たな夢に向かって頑  
張ろう



昭和19年、山越郡八雲町生まれ。59歳。  
小学3年生の時から柔道を始め、1982年（昭和57年）11月に誠有館有櫛道場を設立、子どもたちへの柔道の指導を始める。室蘭市場サービス(株)に勤める会社員。